

住まいは住み手の感性が現れる

多くの人にとって、自分の生まれ育った環境は後の生活に影響する。その地域へ属していた意識がふるさとへの愛着にもつながる。ならば、生まれ育った場所に喜びを感じるような環境にしたいと思いませんか？

されど土地

大半の人にとって、建てることは土地を探すことから始まる。その土地に決める判断基準は様々。賃貸マンションのように、利便性や価格で決めてしまうこともあれば、学区や通勤をベースに考えることもある。しかし、周辺環境による土地の印象が大切な要素になることは実に多い。お隣が敷地境界いっぱい建っていたり、手入れのされていない庭や物が雑然と置かれている様子などを見ると、どれ程立派な建物であっても別の場所を探したくなる。反面なんだかうまく言葉にはできないが、新旧関係なく空気感が非常に良いと感じる土地もある。どちらも周辺環境は地域住民が作りあげている。

土地を探すまでは周辺環境を含め、町を吟味する側であったが、購入すると今度は自分達が吟味される側になることを忘れないようにしたい。土地探しの中で目障りに感じたことを、自分達もしないように注意しなければいけない。土地の所有者となったあなたの感性や配慮、その地域への敬意が周辺環境をより良

くする大切なこと。一人ひとりの思いの積み重ねが地域の空気感と価値をつくる。更には、地域で暮らす人の感性も育ててゆく。自分達の土地だから、好きに建物をつくり暮らしてゆきたいと考えていると、地域は時間と共にその様な環境をつくりあげてゆくことにつながる。当然、子供の人間性もその環境のなかでしか創りあげられない。

以前から所有していた土地と違い、新しく移り住むことが大半ではないだろうか？つまり新しく移り住んで来た人は、その環境に納得して土地を購入したのだから、今まで育ててきた周辺環境の一員として配慮し、協力することは当然だと思う。美しい町というのは、共通してこの意識が高い。(高級住宅街ということではない。)しかも、自分達が暮らす町に誇りを持っている人が多い。町の雰囲気や安心感は、そこで生活する一人ひとりの思いやりで成り立っている。ゴミステーションの様子をみるとその地域の人間性が見えてくる。「自分達だけは・・・」という考えは、時間と共にその様な町に変化してゆくことを注意しなくてはならない。多くの住民が好き勝手しだしたらどうしますか？あなたはどの様な環境を求めて土地を決めたのだろうか？住む環境は、与えられるだけではなく共に育ててゆかなければいけない点を理解しなければいけない。

住まいは人を創る

納得して購入した土地の上に建つ住まいはどうだろうか？今までの暮らしの積み重ねで手に入れてきた手持ちの品々はその人の感性である。現在の暮らし方も感性。住まいに関しては、設計者の提案、ハウスメーカーの規格や安心感など最終決断するのは住み手となる人。その決断はつまりその人の感性と価値観。多様性がうたわれる現代ではありますが、土地と同様住まいも周辺環境をつくり、その地域に住む人の感性や価値観をつくりあげてゆく。何十年経っても住み続けたい町には、誇りと思いやる意識が共通している。その様な環境で生活する子供たちに与える影響は大きな財産となる。

周辺環境を気に入って土地を購入したのだから、今までその環境を守り育ててきた周辺の方へ敬意を持つことは当然のことかもしれない。誰であっても、自分達の住む町や環境をうらやましがられるとうれしいはず。その環境に携わる一員として自覚しなければいけない。住まいの設計者や営業の人間が、それらのことを十分理解したうえで提案することは当然である。その後何十年とその地域環境を育てていくのは住み手なのだから。数日で間取りを考えることは時間短縮のメリットは大きいでしょう、しかし数日だけでその環境を理解できるのだろうか？何十年とその場に定着する住まいを提案するには時間をかけるべ

きことではないだろうか。時間が経過すると自然と周辺環境への理解の差がでてくる。周辺環境の一部になることを思い出して欲しい。

人の感性や価値観は時間と共に変化してゆくもの。思い返してみると20代の洋服のスタイルと今とでは異なっていないだろうか？洋服以外にも本や食事なども。感性や価値観は年齢を重ねることにより熟成されてゆくもの。感性や価値観が高まる暮らしを築き上げる環境が、人を創る。同時に、何事も必要以上に持たない、備えないことが後の変化にも対応しやすく気持ちのゆとりを生じさせると私は感じています。

だからこそ、考え方や暮らしへの思いを共有できる人と住まいを一緒につくることは大切。安心できる住まいと、美しい周辺環境を育てゆく大きな一歩となる。

住まい（環境）は人を創る

平成22年7月

建築設計事務所インドット

代表 森本 知宏